

生活交通運行事業に関する説明

芳野地区生活交通を考える会

岡山市 交通政策課

1. 岡山市における生活交通の役割・位置づけ

【役割①】 公共交通の利用が不便な地域における**日常生活の移動手段**

- 現在、公共交通の利用が不便な地域に20万人居住しており、このような地域での移動手段を確保する。

【役割②】 外出機会を創出し、**地域活力を維持・向上**する手立て

- 高齢者等の交通弱者の移動手段を確保し、地域の商業店舗や病院に結ぶことで、地域内の消費活動を創出する。

【役割③】 地域で地域の公共交通を考えるきっかけ

- 地元組織が主体となって企画・導入・運用を行うことで、地域で地域の公共交通を考える機会とする。
- 既にある地域の公共交通（タクシーを含む）が活用できるように配慮し、中長期的に公共交通指向への転換を目指す。

■生活交通の導入イメージ



■生活交通の確保

鉄道やバスが利用しづらい地域を対象に、デマンド交通等の導入により、日常生活に必要な交通手段を確保する。

■地域の施設や公共交通へ接続

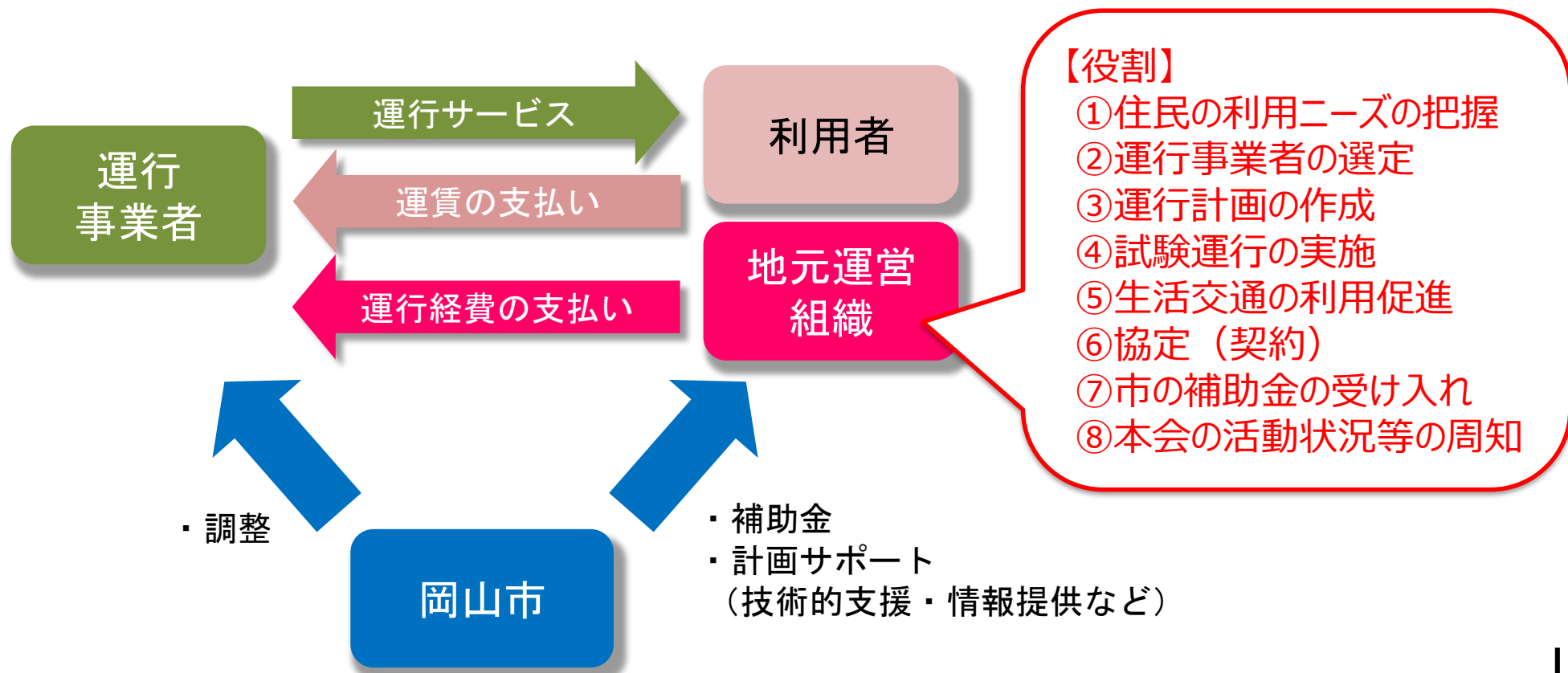
地域のニーズを踏まえつつ、スーパーや病院等日常生活に必要な施設や、駅やバス停等の既存の公共交通へ接続する。

既存の公共交通

2. 生活交通の事業内容

(1) 検討・運用体制

- 導入検討の意向がある地域で**運営組織**を立ち上げ、そこが**主体となって検討・運用**を行う。
 - 芳野地区では、地元運営組織「芳野地区生活交通を考える会」を設立
 - 市は、**生活交通の理念に則って**、ニーズ調査や運行計画策定に関する**技術的支援**と**補助金**により地元運営組織を支える



2.(2) 導入・運用の流れ

- ニーズ調査に基づく運行計画を策定し、**1年間の試験運行を実施**

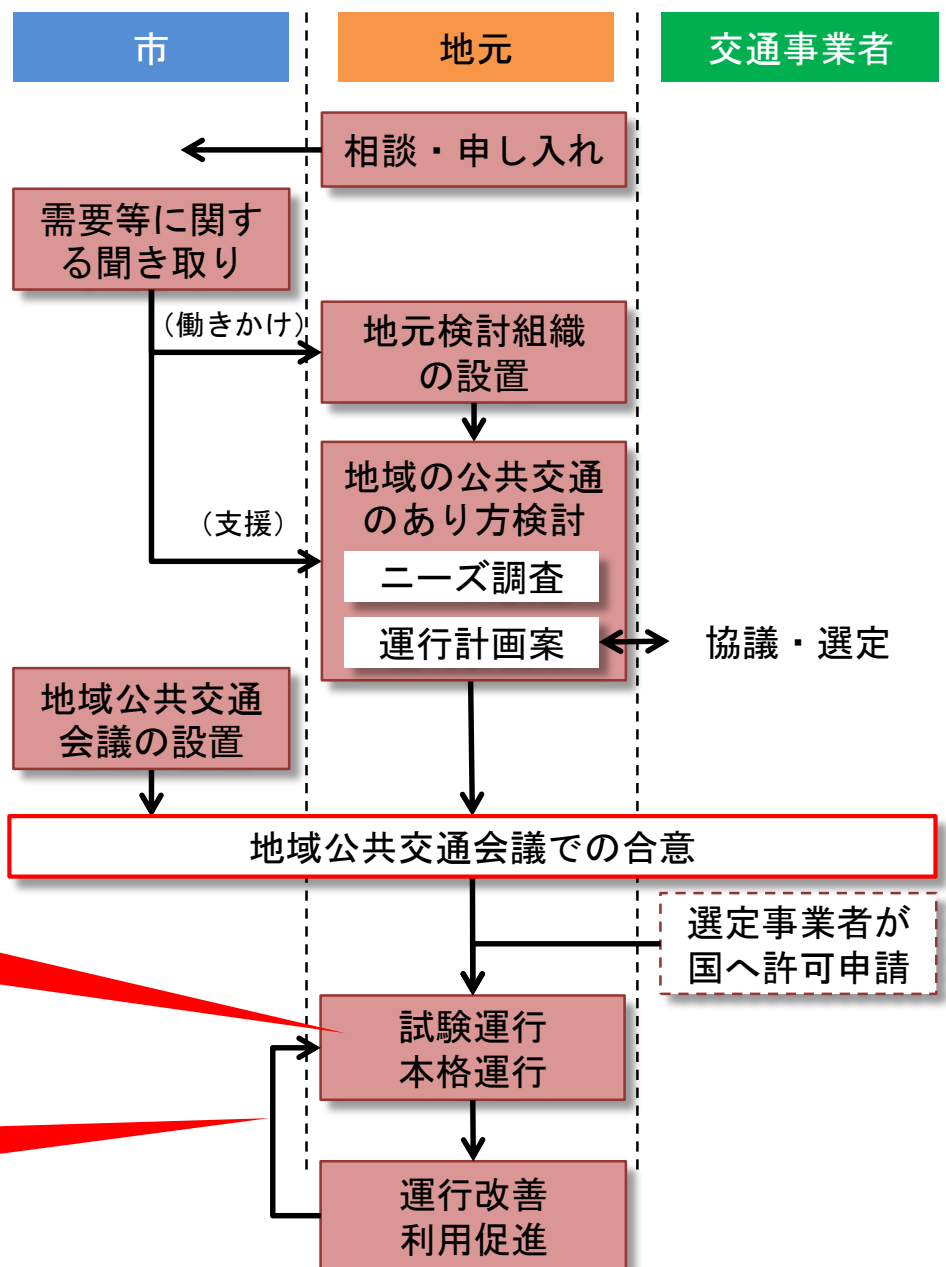
- 試験運行の結果を踏まえて、本格導入の判断及び運行計画の策定を行う

- 当該地域で運行するバスやタクシーなどの**既存交通事業者との合意が必須**

- 地域公共交通会議での合意の後、国へ事業認可申請
- 試験運行、本格運行それぞれ合意が必要

1年間の試験運行を実施し、その結果を踏まえて本格運行へ移行

地元の主体的なチェック・改善



<運行計画の検討におけるスタンス>

① 需要に応じた規模でスタートする

- そもそも路線バスの成立が難しい地域であるため、**タクシー車両（セダン型）**での運行からスタートする
- **週30便**程度の運行頻度を基本と考える
- 需要の変化に応じて、運行頻度や車両をバージョンアップしていく（地域が考える）

② 買物や通院目的の移動を支える

- **目的地**は主として**スーパーや病院・診療所**とし、買物や通院目的の移動をターゲットとする（福祉タクシー・スクールバスではない）

③ 地域の交通事業者で、地域の施設を結ぶ

- 運行可能な**地域の交通事業者**の選定を心がけ、**地域の商業施設・病院**等の施設を行先とすることで、地域の活力・経済を維持・向上を図る

④ 駅・バス停に結節させる

- 駅・バス停へ結節することで、**鉄道や路線バスの下支え**となる交通サービスを目指す
- ただちに多くの乗り換え需要が見込めないとしても、多様な選択肢を用意することで、**中・長期的に公共交通指向**への転換を図る

2.(3) 芳野地区での運行サービス

<車 両>

- ・2名以上の場合、**相乗りでの利用**となります。
- ・利用者の増加に伴い、車両の大型化や増便などを地元と協議します。



<利用方法>

- ・区域内はどこでも乗り降りできます。
※交差点など危険な場所は除く
- ・区域外では指定の停留所で乗り降りします。
- ・利用する際は、事前に運行事業者へ**電話で予約**していただきます。

<運賃>

- ・**地元検討組織との契約の中で運賃が設定**されます。

利用方法

① 電話で予約

※利用する際は事前に予約
※乗車場所や行先を指定

② 自宅付近等で乗車



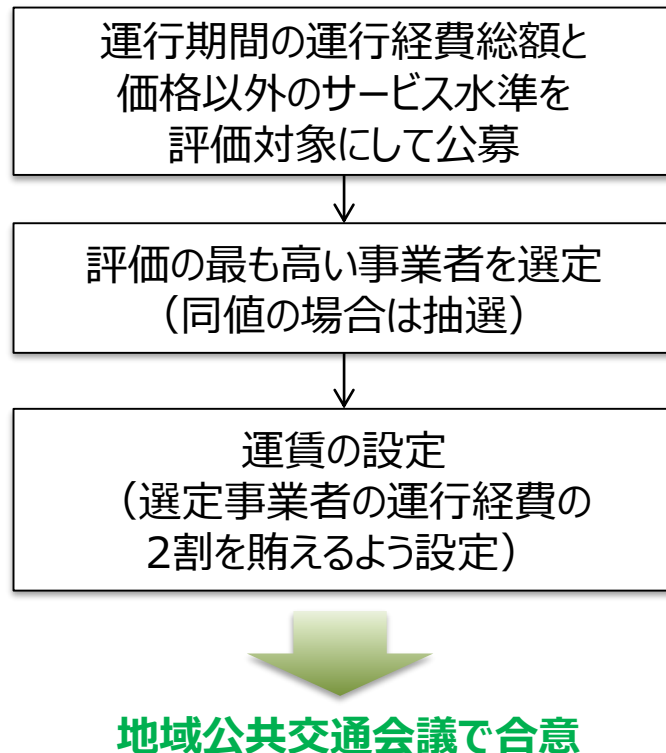
③ 目的地付近で運賃を支払って降車



2.(4) 運行事業者の選定

- **価格と価格以外のサービス**の両面で運行事業者を評価し選定
- 公募の範囲、評価項目の検討、評価及び選定は、**地元検討組織で決定**
- 運行計画の見直しや運行事業者の再選定は、**地元検討組織の判断**で必要に応じて実施する

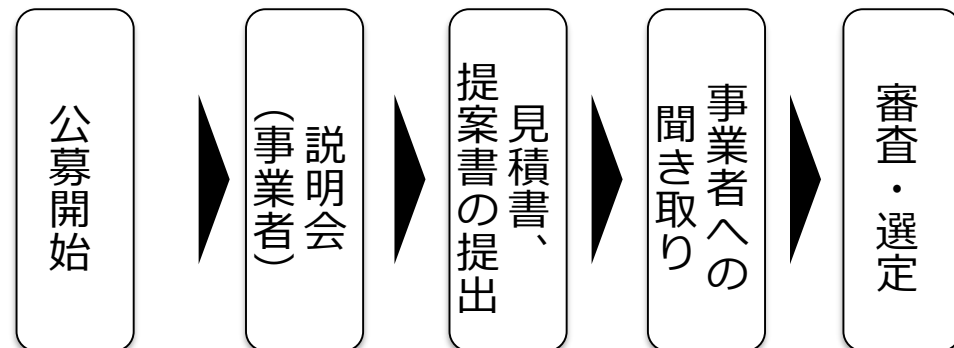
■ 事業者選定



■ 評価項目（下記項目について事業者が提案書を提出）

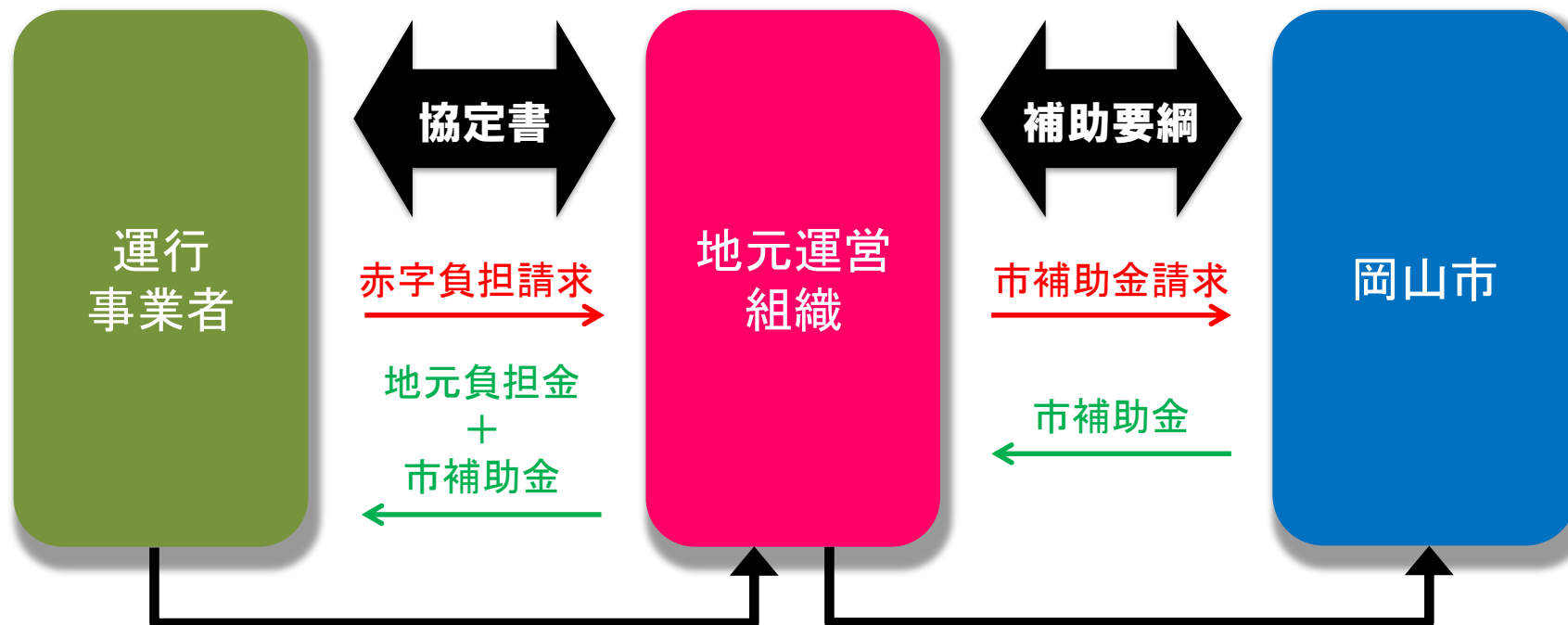
項目（例）		内容（例）
価格	運行対価	運行サービスの対価（1便あたり）
価格 以外	安全性	安全・安心なサービスを提供するための取組み
	利便性	乗合タクシーの予約方法や、利用する際の利便性 向上策として提供できるサービス
	その他	その他の独自に提供されるサービス

■ 選定までの流れ



2.(5) 契約・支払い手続き

- **地元運営組織**は、運行サービスと対価の支払い等に関して、運行事業者と協定書を締結。
- 市は、地元運営組織に対して、要綱に基づき補助金を交付。
- **運行事業者**は、地元運営組織に、稼働・利用状況を書類で報告。
 - 運行事業者は、指定する統一フォーマットで収支計算書や稼働・利用情報を書類報告し、地元運営組織と市で、各種請求内容を確認する。



毎月の稼働・利用状況を報告し、地元と市がチェック・モニタリング

2.(6) 試験運行開始までのスケジュール

スケジュールは地元・交通事業事業者と調整

[STEP①] 運行事業者の募集

赤字：事業者が主体的に行うこと

- ・企画提案書の提出（参加意向のある交通事業者）
- ・交通事業者へのヒアリング⇒選定（地元検討組織）

[STEP②] 運行事業者の選定

- ・運賃設定（地元検討組織が決定）
- ・運行準備等に関する覚書締結（地元検討組織⇔運行事業者）
- ・停留所地権者との承諾書取り交わし（運行事業者）

[STEP③] 地域公共交通会議

- ・事業認可申請の書類作成（運行事業者）
※市がサポート

[STEP④] 事業認可申請（運輸局）

運輸局許可後…

- ・運行に関する協定書締結（地元検討組織⇔運行事業者）
- ・バス停の作成・設置（市、地元検討組織）
- ・車体表示板の作成（市、地元検討組織）
- ・住民への周知（市、地元検討組織）

[STEP⑤] 試験運行の開始

記載事項について調い
次第、協定書へ移行